

各学部・学科・専攻の教育研究上の目的

学 部 学 科 専 攻	目 的
人間学部	人間学部は、「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神を人間の全体性回復に生かし、細分化した現代の学問体系を見直すことを理念として設立されている。そのため、宗教学的・哲学的探求を通して全体性の回復を目指す宗教学科と、臨床心理・生涯教育・社会福祉の3分野にわたる実践的なアプローチを通してその回復を目指す人間関係学科の2学科を開設し、建学の精神を具現化するため、国の内外で「他者への献身」に邁進できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。
人間学部 宗教学科	宗教学と天理教学の理論、および現代世界をとりまく多様な宗教状況をひろく学ぶことを通じて、ものごとに多面的に対応できる資質と能力を修得させ、同時に、建学の精神にもとづいて、国の内外で社会に貢献する実践的意欲をそなえた人材を養成することを教育研究上の目的とする。
人間学部 人間関係学科	各専攻の特徴を生かし、人間や社会に対する幅広い関心のもと、臨床心理、生涯教育、社会福祉についての専門的知識や技能を基礎から応用までしっかりと修得させるとともに、さまざまな資格を取得して社会で実践的に活躍できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。
人間学部 人間関係学科 臨床心理専攻	現代社会に起きているさまざまな心の現象を幅ひろい視点から理解するために必要な基礎知識と能力を修得させることを通じて、臨床心理士をはじめ、諸問題の解決に向けた社会活動に実践的に取り組むことのできる人材を養成することを教育研究上の目的とする。
人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻	社会教育や学校教育、地域社会など、さまざまな場面における教育実践活動の理論と技術を修得させるとともに、学習支援活動という対人的交流を通じた自己能力の向上を体験させることを通じて、これからの生涯学習社会を担える人材を養成することを教育研究上の目的とする。
人間学部 人間関係学科 社会福祉専攻	社会福祉のプロフェッショナルとして必要な、理念への理解、現場に関する専門的知識、福祉活動をめぐる諸技能等を修得させ、社会福祉施設や機関、団体、病院等で活躍できる人材を養成すると同時に、福祉への視点と理解をもつ市民をひろく育成することを教育研究上の目的とする。
文学部	他者理解の基礎であり未来に伝えてゆくべき遺産である言語・文学・歴史・文化を対象として、広く深い学識、真実を探究する方法、自ら学び伝える力を養い、それとともに、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに世界に貢献する資質を身につけさせる。そのため、日本語・日本文学を研究し、また日本語表現能力を磨く国文学国語学科と、歴史・考古・民俗資料を研究し活用する歴史文化学科の2学科を設ける。かくて文学部は、国際的視野をもって「陽気ぐらし」世界の建設に寄与する人材を養成することを、教育研究上の目的とする。
文学部 国文学国語学科	天理教教義に関わる文献を研究し、立教当時の言語生活を解明する。また、文学作品や言語資料の考察を通し、国文学と国語学の知識を、基礎から高度な専門領域まで段階的・組織的に修得し、日本文化の幅広い理解のもとに、国際的な視野を持つ人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学 部 学 科 専 攻	目 的
文学部 歴史文化学科	歴史学・考古学・民俗学に立脚しながら、地域に根ざした歴史認識を養い、国際的視野に立った時代や文化の理解をめざす。また、歴史文化に関わる資料の調査・記録能力を修得し、自主的な学びと正しく伝える力を身につける。これらの知識や能力を活用し、教育や文化財に関わる仕事を通して地域社会に寄与する専門的職業人と、歴史文化に学びつつ現代社会に貢献する教養ある社会人の養成を教育研究上の目的とする。
国際学部	現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。そのため、国際人に必須の高度な語学力の習得に重点を置く「外国語学科」と、地域言語を習得しながら、自ら参加し行動する実践教育を通して、広域地域における異文化共存についての理解に重点を置く「地域文化学科」の2学科を設ける。かくて国際学部は、利他の精神を身につけた真の国際人として世界に雄飛し「陽気ぐらし」世界の建設に寄与する人材を養成することを、教育研究上の目的とする。
国際学部 外国語学科	英米語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語・ブラジルポルトガル語を専攻語とする4専攻を設け、建学以来培ってきた「天理メソッド」により語学力を徹底して鍛えることに主眼を置く。さらに、留学や語学実習、各種プログラムによる実地体験も加えて、語学力の完成度を高めつつ、専攻する言語の国や地域の歴史、文化についての理解を深めさせ、国際学部が目指す人材の養成を教育研究上の目的とする。
国際学部 外国語学科 英米語専攻	英米語専攻は、今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて当該地域の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成するのが英米語専攻である。
国際学部 外国語学科 中国語専攻	中国語専攻は、国際的な視野を有し、国際社会に対応できる人材の育成をはかるための実践的な中国語教育を行う。本学の中国語学習は、学習レベルに応じて体系化したカリキュラムに基づき、高度な中国語運用能力を養成する。さらに実り豊かな留学・海外語学実習を通じて、異文化理解の能力を身につけさせ、国際社会で活躍できる人材を養成するのが中国語専攻である。
国際学部 外国語学科 韓国・朝鮮語専攻	韓国・朝鮮語専攻は、本学創設当初から90年を越す長い歴史の中で培われてきた実績を基に、実践的な韓国・朝鮮語教育を行う。日本語とことばのしくみが類似している韓国・朝鮮語をスピーディーかつ体系的に習得するうえから、聴解力および発話力と正確な読み書きの運用能力を養うための文法教育を徹底して行う。さらに朝鮮半島の歴史と文化を日本と諸外国との関係の中で学ぶことによって、国際社会で活躍できる人材を養成するのが韓国・朝鮮語専攻である。

学 部 学 科 専 攻	目 的
国際学部 外国語学科 スペイン語・ブラジ ルポルトガル語専攻	スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻では、本学語学教育の伝統に培われた少人数制メソッドを基に、実践的・有機的な専攻語教育を行う。ローマ字読みにも発音が近く、日本語話者にとってなじみやすい外国語である両専攻語の段階履修で基本4技能(聞く/話す/読む/書く)を錬成する。関連地域の言語文化・歴史社会・芸術等についても専門知識を涵養することによって、国際社会に対応・活躍できる人材を育成するのがスペイン語・ブラジルポルトガル語専攻である。
国際学部 地域文化学科	本学独自の国際研究の視座から、世界をアジア・オセアニア、ヨーロッパ・アフリカ、アメリカスという地球を縦割りにした3地域に分け、これに日本を加えたいうで地球規模に拡大した東西間・南北間の相互作用の動静を、広い射程と複眼的な方法で学ばせる。さらに、本学が蓄積してきた多様な地域言語文化の教育・研究実績を活かし、各地域の10言語から地域言語を選択し習得させるとともに、関心ある地域や国家を自らの研究拠点と定め、留学や海外での実践教育(国際参加プロジェクトなど)に参加させる。加えて、各種プログラムを修得させることによって、国際学部が目指す人材の養成を教育研究上の目的とする。
体育学部 体育学科	「陽気ぐらし」世界の建設に寄与せんとする建学の精神を具現化するために、「他者への献身」の精神を涵養し、身体についての科学的な認識を深めるとともに、国際的な視野に立ってスポーツの意義や可能性を探究することを教育研究上の目的とし、以下のような人材を育成する。①スポーツにおける高度な競技能力・指導能力を有する人材。②子ども達への深い理解をもった教育能力の高い学校体育教員。③スポーツの新たな可能性を追求し、スポーツ文化の創造に寄与できる人材。④人々の健康の維持・増進に貢献できる人材。⑤日本の伝統文化である武道を正しく継承し、世界に発信できる人材。
医療学部	人に尽くすことを自らのよこびとするという天理教の理念を基調として、社会人としての豊かな知識を持ち、医療に関わる専門性の高い技術・技能を習得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材を育成することを目的とする。
医療学部 看護学科	看護の対象である個人・家族・地域の人々のそれぞれの成長発達段階と健康段階に応じた看護を実践できる能力、技術、態度を身に着けた医療人の育成をするために、 ①ヒューマニティとアートの統合としての「人に尽くす」看護の探究 ②サイエンスとアートを統合し、あらゆる健康レベル、看護ニーズに応じた看護実践力の育成 ③異なる学科、学年との協働的学習による関連多職種と協働する能力の育成 以上の3つをあげ、幅広い教養、深い専門的素養、科学的な看護学の知識、看護実践能力、ケアの心を兼ね備えた看護師を養成することを目的とする。

<p>医療学部 臨床検査学科</p>	<p>臨床検査学科として探究し教育する学問分野は、形態検査（血液検査、病理検査など）、生物化学分析検査（生化学検査、遺伝検査、尿・体液検査など）、病因・生体防御検査（免疫検査、微生物検査、輸血・移植検査など）等の検体検査、そして患者さんから直接的に生体情報を収集する超音波検査、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、MR検査等の生体機能検査などがある。また臨床検査を実践するために必要な情報処理、精度保証、検査情報システム、医用工学等のいわゆる検査総合管理学、そして検査データの判読方法（病態解析）、臨床研究の方法、感染対策・栄養管理等への臨床検査の応用についても学ぶ。卒業後に、医療施設、検査センター、試薬・機器の製造開発メーカー、研究所等でも活躍ができるような基本的知識と技能を身につけることを目的とする。</p>
------------------------	---